

2021.11.11. 木曜礼拝

苦悩という炎の試練

イザヤ書48章

それでは、こんばんは。週半ば「聖書の学び」へようこそ。木曜日の夜は、(旧約) 聖書の学びで、現在、素晴らしい「イザヤ書」です。今夜、主の御心なら、48章を学び終えます。先週は、47章を学び終えました。まだ開いておられない方は、その箇所を開いてください。祈りの言葉から始めましょう。よろしければ、ご一緒に。今夜の聖書の学びを祝福下さるよう神にお願いしましょう。神が私たちにご用意下さっている事が本当に楽しみです。

天のお父様。本当に本当に感謝します。この時間、この場所。あなたの御言葉に。主よ、本当に楽しみにしているのです。特に最近、様々なことが起こっていて、木曜日の夜に、あなたの御言葉の中で共に過ごすこの場所この時間は、私たちにとって、「休息」であり、「慰め」であり、まさに「聖域」なのです。私たちが共に集まり、人生のストレスをすべて横に置き、あなたに集中できる時間なのです。あなたが私たちの心を静めてくださるので、私たちは、あなたの小さな静かな声を聴くことが出来るのです。

主よ、今夜も例外ではありません。特に、本当に苦勞している人たちのために。多くの人がそうなのです。あまりにも多くのことが起こっていて、非常に激しくなっており、熱が高まっています。主よ、あなただけが御出来になる通り、こんにち私たちが、人生で置かれている状況を的確に物語る御言葉箇所に、私たちを置いておられます。あなただけがそれを御出来になれるのです。あなたの御言葉が生きているからです。生きておられ、生き活きして、どんな両刃の剣よりも鋭いからです。主よ、今夜ここで、私たちにご用意下さったあなたの御言葉に感謝します。主よ、お語り下さい。あなたがなさることに全集中したいのです。聞く耳を持ちたいのです。主よ、お語り下さい。あなたのしもべが聞いています。イエスの御名によって。アーメン、アーメン。

では！ ライブに入る前に伝えましたが、毎週こう言っていますが、今日の章を本当に楽しみにしていました。もちろん全ての章がそうですが、今の私たちの状況にピッタリなんです。今夜の私たちの前にあるこの章で、神は、預言者イザヤを通し、バビロンへの裁きの預言から、神のご計画、神の民への憐れみへと、方向を変えられます。ある意味、角を曲がられるからです。特に、バビロンを用いられ、苦しみの炉の中で民を磨き、浄化させられることに関連しています。神はバビロンに、ご自分の御手の道具になることを許されるのです。恐らく、神の御手の中の炉は、神の民を精錬し、浄化するためのものだと言った方がいいかもしれません。これがまさに、この章からの教訓です。私たちの人生に、激しい試練、苦しみの炉を与える必要があると神が判断されることがいかにまた、なぜなのかを物語っています。そして、神の恵み、憐れみ、愛が、この章の終わりに、このことが分かりますが、この苦しみの炉、つまり試練と試練の時を用いられるのです。なぜなら、最終的に私たちのためになり、おそらくもっと重要なのは、神の栄光と神の御名のためだからです。実際、神は何度もそう仰います。これから見て行きましょう。では皆さん、準備はいいですか？ 1節から、

イザヤ 48

1 これを聞け、ヤコブの家よ。あなたはイスラエルの名で呼ばれ、ユダの源から出て、(注意して聞いてください) 主の御名によって誓い、イスラエルの神を呼び求めるが、真実をもってせず、また正義をもつてしない。

2 実に彼らは聖なる都の出だと自称し、その名が万軍の主であるイスラエルの神に寄りかかっている。

わお～何というこの章の始まり方でしょうか。ここで神が、預言者イザヤに仰っている事が分かりますか？ 神は基本的に、実際、非常に説得力がありますが、こう仰っています。

「あなたがたは、わたしを知っていると公言している。あなたがたは、主の御名を公言している。しかし、あなたがたの行動が、口で言っている事と一致しない。」

注目してください。これは出だしから非常に興味深く、今から再び見ていきますが、神はこう始められます。「これを聞け、ヤコブの家よ。あなたはヤコブの名ではなく、イスラエルの名で呼ばれている。」

なぜ神は、預言者イザヤにこのように言葉を書かせたのでしょうか。ここで考えてみましょう。

「あなたはヤコブだ。出し抜く者。騙す者。詐欺師。それがヤコブの意味です。名前は性質を表しますから。しかし、あなたはヤコブの名前で識別されていない。わたしの名、イスラエルの名で呼ばれている。」

殆ど正反対の意味です。神に支配されている、統治されているという意味です。言い換えると、「あなたは主の御名を主張する。しかし、偽善と二枚舌である。あなたは、わたしの名で知られ、わたしの名を公言しているが、あなたの歩みは言う事と一致していない。」因みにこれが、神がバビロンの手にご自分の民を渡す、まさに苦難そのものをお許しになる理由なのです。3節、

イザヤ 48

3 かつて起こったことは、前からわたしが告げていた。それらはわたしの口から出て、わたしはそれらを聞かせた。にわかには、わたしは行い、それは成就した。

4 あなたが頑なであり、首筋は鉄の臄、額は青銅だと知っているのも、かなり堅いですね。

5 わたしは、かねてからあなたに告げ、まだ起こらないうちに聞かせたのだ。『私の偶像がこれをした』とか『私の彫像や鑄た像がこれを命じた』とかあなたが言わないようにするためだ。

お～本当に？ お～わお～凶々しくて大胆で、調子に乗って、傲慢で頑固なことを言っていますね。神の御顔を汚しています。あなたは神がなされたことを彫られた像や偶像に評価している。大間違い！ これは、私たちが自分の人生で気をつけなければならないことの一つです。なぜなら、皆さんが私同様なら、そうだと思いますが、私たちはいとも簡単に、イスラエルの民に対して厳しくなってしまいます。

「ああ、どうしてそんなことができるんだろう？」と。「神がなされたのに、彼らは大胆にも言う違う、それは偶像、私たちの偶像、彫像の神々がしたのだと。」へ～そうなんですか。まるで、さらに説得力があります。神が議論の余地のない証拠を提示し、初めから終わりのことを預言されていたにも関わらずです。神の仰り方に注目してください。

「これから起こることを、起こる前に告げる。そして、わたしがそれを実現していくのだ。しかし、あなたはとても頑なです。」言わば、あなたはわたしの顔を見て、こう言える大胆さがある。『いや、あなたがしたのではなく、私の偶像が、彫像がしたのです。』さて再度、私たちが自分を高く評価して、自分がより敬虔だとは考えないようにしましょう。それは絶対にしてはいけません。ちょっと考えてみましょう。神にしか御出来にならないことを、何度神は、して下さっていますか？ 神はそれをして下さっただけでなく、紛れもなく、議論の余地も反論の余地もない方法でそれをしてくださいました。なのに彼らのように、同じことをして、それを自分たちがやったと言うのです。神ではなく、自分たちの手柄にする。そう、これから見る通り、神はそのことについて何か仰りたいことがあられます。

イザヤ 48

6 あなたは聞いた。さあ、これらすべてを見よ。あなたがたは告げ知らせないのか。わたしは今から、新

しいことを、あなたの知らない秘め事をあなたに聞かせる。

7それは今、創造された。ずっと前からではない。今日まで、あなたはこれを聞いたこともない。『ああ、私は知っていた』とあなたが言わないようにするためだ。

お～なんということ。いっそう酷いです。分かりますか？ あなたが何と言うか。こう言う事です。

「わたしは神だからこれをする。それを行う前にあなたに伝えた。だから、わたしが行ったとき、あなたは、わたしが行ったのが分かるのだ。あなたの反応は？ ああ、あなたはひれ伏し、ただ神を讃え、神に感謝するのです。「わお～全てが神への栄光です。」なのに、あなたはこう言う。「私は知っていた。分かっていた。」私がこう話しても誰もそう考えないのをお願いします。それは、知ったかぶりをする人がすることではないですか？ 知ったかぶりをする人と一緒にいたい人はいないでしょう。彼らって全て知ってるんだって。何を言っても無駄。「私は分かっている。分かっていたもん。」「そうそう知ってる知ってる。」ええ、どうも私には問題があるようです。しかし、ポイントは分かりますね？ それが彼らのしている事なのです。ここでつまり、神が宣言され、して下さり、そして彼らがこう言うのです。「知ってる知ってる。」「分かっていた。分かっていた。分かっていたもん。」やめたほうがいいですね。悔い改める必要があります。8節、

イザヤ 48

8あなたは聞いたこともなく、知っていたこともない。ずっと前から、あなたの耳は開かれていなかった。わたしは、あなたが必ず裏切ることを、母の胎内にいるときから背く者と呼ばれていたことを知っていたからだ。

ブーン！ それを「マイクドロップ/マイク落とし」と呼ぶそうです。神はこう仰っているのです。「それがあなたの反応だと知ってました。」「わたしはそれが分かっていた。分かっていた理由を言うと、あなたは生まれつきそうだからだ。」私たちは皆、胎から罪びととして生まれました。再度、殆ど神が、こう仰っている感じです。

「あなたが何をしようとしているのかは分かっているが、とにかくわたしはわたしのやり方でやる。わたしはそれをするだけではなく、わたしがそれをする、というより、わたしのやり方です。わたしのやり方というのは、あなたが”知っている”とは決して言えない方法だ。決してあなたは知りえなかった。自分を誰だと思っているのか？ 全知全能の神と同じ土俵に立っているのか？」それは傲慢の極みです。9節、ここからが非常に興味深いところです。

イザヤ 48

9わたしの名のために怒りを遅らせ、

(訳すと、あなたのためにするのではない) わたしは抑え、我慢し、怒りを先送りにする。でもあなたのためにそれをするのではない。わたしの名のために栄光のためにするのだ。)

...わたしの栄誉のためにそれを抑えて、(これ聞いてください) わたしはあなたを絶ち滅ぼさなかった。

お～わお。神が預言者イザヤを通して仰っている内容分かりますよね？ 神は、ご自分の怒りを抑えて、抑制しなければ、それを終わらせるだけだろう。あなたを終わらせるだろう。あなたを絶ち滅ぼすだろう。あなたを殺してしまうだろう。それが神の御怒りというものです。人間の怒りではなく、神の御怒りです。ここで、11節に入る前に何が重要か、再度言いますと、神はご自分の御名のためになさっておられる事です。というのは、神の御名がかかっているからです。名が性質を表すなら、表しますが、神の仰っているのはこうです。ここで問題になるのは、わたしの性質です。だから、わたしがあなたを一掃し、

あなたを排除し、滅ぼしてしまったら、わたしの責任です。わたしにも反映されます。だからそれが理由で、わたしはそれはしない。あなたは深呼吸すれば良い。自分で自分を褒めてはいけない。それが、わたしが行う唯一の理由だからです。そして神は再び仰います。11 節、

イザヤ 48

11 (2 度仰います) わたしのため、わたしのために、わたしはこれを行う。どうしてわたしの名が汚されてよかろうか。わたしの栄光を、ほかの者に与えはしない。

OK。お付き合いください。ここには、2～3 点私たちが留意すべきことがあります。“汚す/冒瀆する”という言葉は、大きく誤解されています。何かを冒瀆することは、それを一般的なものにすることです。例えば、わたしの名を使い、冒瀆する。冒瀆的、不敬という語から由来します。しかし神がここで仰っているのは、「わたしの名を使い、泥沼に引きずり込むことになる。そうすることで、冒瀆することになる。」わたしは、そんなことにならないようにする。わたしの名がかかっているのだから。わたし自身のため、わたしの名のためそして誰も栄光を手にはできない。」これが、このあと学ぶ通非常に重要になります。しかしこれが、神がこのような試練、苦しみの炉をお許しになられる理由なのです。常に、まず第一に神の栄光のためなのです。私たちの善のためです。しかし、常に最終的には神の栄光のためなのです。神の栄光のため。肉は、神の御前に栄光を手にはできませんから。最後は、神が全ての栄光を受けられます。これには、もうひとつの側面があります。これから取り組んでみたいのが、興味深いのは、御心なら日曜日の「聖書預言・アップデート」でこの話をする予定なのですが、炎のような試練に関連していて、神は苦しみの炉の中でどのように私たちに磨こうとされておられるのかです。それって 10 節です。私、10 節を飛ばしてしまいました？あ、飛ばしました。ああ、それが、この章の全てなのに。わお、エアコンがないとこうなるんですね。—(笑)— 10 節、申し訳ありません。お許してください。

イザヤ 48

10 見よ。わたしはあなたを錬ったが、銀のようにではない。わたしは苦しみの炉であなたを試した。わたし自身のために。わたしのために。

神が 2 度仰っている箇所です。OK。ここで、これが理由です。決まり文句に聞こえるかもしれないのは分かっていますが、苦しみの炉は、その炎のような激しい試練は、私たちをより良くするか、苦くするかのどちらかです。再度、決まり文句なのは分かっていますが、ある人が言った通り、太陽の熱は硬くすることもできるし、柔らかくすることもできます。それは、人がどのような状況に置かれているかによります。ですからあなたが、この非常に困難な時期を経験しているなら、それはあなたの心を柔らかくも、硬くもする可能性を秘めています。考えられるのは、嘆いていることから、イスラエル人にとってそうであったと思われる。より良い言葉が見つかりませんが、10 節で、

「わたしはあなたを錬ったが、銀のようにではない。」銀細工師は、銀を精錬するために炉を使いますから。「わたしは苦しみの炉であなたを試した。」しかし、わたしが失敗したようだ。銀のように磨いてくれるはずの炎のような炉が、あなたを良くはしてくれなかったからだ。あなたを良くすると思えるのに、あなたを柔らかくはせず、さらに頑なにしているようだ。」同じ炎でも、浄化することもあれば消費してしまうこともあります。私もそう思うのが、私たちの人生でも、そのような試練の時にはそうなりませんか？ たちは誤解しています。先週お話ししたように、私たちは、神の愛、神の恵み、神の憐れみ、さらには神の懲らしめを誤解していると言った方がいいかもしれません。また「ヘブル書」の学びで見ますが、私たちは、それを誤解釈しています。誤解しています。そうすると、反対側に行ってしまう、心が頑

なくなってしまうのです。「主よ、この苦しみの炉から何を私に学ばせたいのですか？」と言うのではなく、むしろその代わりに質問するのが、「なぜ私を苦しみの炉に入れられるのですか？」となってしまうからです。それは間違った質問です。間違った質問に対して正しい答えは出来ません。質問とは、「なぜあなたは私にこんなことを許されるのですか？」ではなく、「神様、あなたはこの中で何をなさろうとしているのですか？」です。「これで私に何を見せられるのですか？ 違いなく、あなたはこの苦しみの炉に私を置かれた理由がある筈です。」「私を柔軟にしようとされているのですね。私を良くしようとされているのですね。私を形造り、イエス・キリストの姿に私を造り変えようとされているのですね。」それが目的です。ペテロが言っているように、黄金のように精錬、精製するプロセスなのです。(I ペテロ 1:7 参照)

金細工師は、その金を強烈な熱の炉にかけます。そうすると、金の中の不純物がすべて表面に出てきます。金細工師は粗を削り、銀も同じです。金に自分の姿が映っているのを見て、それが純金だと分かるのです。皆さん繋がりますか？ れが目的なのです。神は、私たちがイエスのように作り変えられ、イエス・キリストの姿に形造られるのです。それが目的なのです。「ローマ人への手紙 8 章 28 節 29 節」ですね。

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」(ローマ 8:28)

では、今夜の私たちへのご計画は？

ローマ 8 章 29 節です。神のご計画は、あなたをイエスに似せることです。そのために、苦しみの炉を使わなければならないとしたら？ う、苦しみの炉なのです。神があなたに怒っておられるからではありません。違います。神のあなたへの愛が故です。神があなたへ何をされるかではなく、神があなたの中に何をされるかなのです。よく言われることですが、神はまず私たちの中にその働きをしなければ、私たちを通して働きをすることは御出来になりません。だから苦しみの炉があるのです。神は私たちを炎のような苦しみの炉に送られるのです。私たちを罰するものではありません。

「教えてやる！！！！こうすれば、次はもう分かるだろう。炎のような苦しみの炉に投げ込んでやる！！！！」違います！もっとこんな風です。「あなたの人生には、燃やしてしまわなければならないものがあります。あなたの人生に住み着いているもので、手放さなければならないものがあります。なぜなら、わたしがそれを取り除かなければ、あなたの人生が終わってしまうからです。だからこそ、私たちは外科医に体内の癌を切り取るのを許すのです。侵食される前に取り除くという感じですね。同じことが、霊的な意味でも真実です。私たちの人生に増殖しているものがあります。それを取り除くには、焼いてしまうしかない、あの鋭利な外科用両刃で切り取ってしまうしかない。

両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫きます。(ヘブル 4:12)

神はずっと愛をもって、ああ、素晴らしい例があります。随分昔に使っていました。長男が、1歳から2歳になるかならないかの頃に、家内が私を呼んで言うのです。「あの子のお腹にしこりがある。」つまり、当然ながら親として、最初に考えたのは、「腫瘍があるのではないか、彼は癌なのかも、彼は.....」最悪の場合を考えてしまいますよね？ 頼みますよ。皆さんだってそうでしょう？ 私を霊的な目で見ないでくださいよ。いつも最悪の事態を想像しますよね。「そんな〜〜」と。それで息子を病院へ連れて行きました。「ああ、よくあることです。ヘルニアです。」私はこんな風に、「ヘルニアですか？ 小さな幼児がヘルニア？」そうか、この子はヘルニアなのか。それで、自分の子を、あの医者にナイフで切り刻

ませたなんて、信じられますか？ 何だって？ 通報しますよ。どうやって？ どうやってそんなことができるのでしょうか？ お～そこに何かあって、取り除かなければならないからです。この場合、そうする必要がありました。涙が出そうになります。息子はとても活発でした。そう言われていました。

実際、ある日私たちはこう言われました。「ああ、そういう子っているよね。私たちは、「そういう子？」—(笑)— “活発な警報”と呼ぶんです。”活発な警報”ですって？ 勘弁してくださいよ。これが活発な警報？ それをはるかに超えています。しかしとにかく、つまり、活発なのです。はい、絶対的に警報です。しかし、涙もので、彼らはそこに切り込んで、息子のためにそうしなければなりません。それが、神が私たちになさらなければならない事なのです。神は、そこに入っていかなければならないし、時に私たちが、その炉の中に入れなければならないのです。それが、陶器師が粘土にすることではないでしょうか。精錬するために、炉に入れる。なぜなら、私たちは主の作品だからです。キリストのうちに成熟し、恵みのうちに成長するにつれ学んでいるのは、私は皆さんの前に立って、「学びました」とは言えないことです。それはよく言えば不誠実、悪く言えば不正直だと思います。でも私はまだ学びの過程にいます。私は、苦しみの炉の中にいる時に、神と戦わないことを学んでいます。予約しました。私には、VIP 待遇であるの炉があるのですよ。私の名前がついた炉を予約してあるのです。私はこの苦しみの炉に大変親しみがありませんか？」私がするのは、私が炉の中にいる時、この精製の過程で、主と戦ってしまうのです。私がしていることは、長引かせているだけです。自分を悪化させているのです。ここ数週間、主との時間の中で、主が私に本当に語りかけてくださっている事の1つがあります。今週はさらに顕著でしたが “後と前”と呼ぶことにします。説明させてください。神は、私に “後と前”を思い出させなければならなりません。というのも、私が「前」を強調するあまり、「後」を忘れてしまうからです。神が私に、“後”を思い出させなければならないのは、私がストレスを感じ、蹴って、戦って、嘔んで、引っ掻き、叫んだのはなぜかという事で、私がしたことは、自分自身を悪化させることでした。全く不必要でした。この過程で、主に戦う事が不必要だただけでなく、結果的に長引かせたのです。神は再び仰います。

「JD という男は、彼は分かっているね。もう分かっているとあったのに。この炉に入れたのに、まだ戦っている。温度を上げなさい。」そして、熱が上がってきたのを感じて、次のようになります。

「ああ、神様、分かりました、分かりました。もう屈服します。」「そろそろ時間だね。あなたは、自分自身を救えたはずです。あなたが降伏していれば、多くの無用で不必要な苦しみを避けることができたのに。わたしはあなたの中で働いているのですよ。」

皆さん、神は悩める人を慰めてくださるという言葉聞いたことがあると思います。しかし、逆の場合もあると聞いたことはありますか？ 神は快適な者を苦しめられます。ちょっと待ってください。これは、日曜日に話そうと思っていますが、解放される前は、苦難が増していくのは、いかに、またなぜなのか。ここでもこれが起こっているのですよ。それが、イスラエルの民の「出エジプト記」にも見られます。覚えていませんか？ 日曜日に話そうと思っていますが、覚えていませんか？ 神がモーセを呼んで、仰います。「ファラオのところへ行き、言いなさい。”私の民を行かせてください”」と。モーセは、「分かりました。ファラオのところへ行きます。」これは災いの前です。モーセは災いについてまだ何も知りません。それでモーセは無邪気に、神に召されたからファラオのところに行くのだと、素朴にそう信じて行ったのです。それでファラオに言います。「私の民を解放してください。」そして、ファラオは民を去らせるでしょう。いいえ、ファラオは民を去らせません。事実、ファラオの反応はこうでした。「どうやらイスラ

エル人は文句を言うほど時間を持て余しているようだ。」モーセは言います。「3日間、荒野へ捧げ物をしに行かせてください。」(出エジプト 5:3 参照)

神はそうは指示なさっていません。まず行って、3日間と頼みなさいとは仰っていません。違います。それは全く別のモーセの考えでした。それでファラオの返答は、「どうやらあなた方は 暇を持て余している。」何か知っていますか? 「もはやこれまでのように民に藁を与えてはならない。彼らは楽をし過ぎている。」(出エジプト 5:7 参照)

「自分で藁を集めよ。見つけることができるものなら。」店頭での棚の空き具合を見たことがありますか? もう藁はありません。失礼。(滑りました。)そしてそれだけでなく、今まで我々が藁を与えていた時と同じレンガの数量を毎日課す。興味深いのは、考古学的に、いくつかの発掘物から発見されていますが、藁を多く使った方がレンガの質が良かったのです。そして、上に行くほど、藁が少なくなり、レンガの質が悪くなっていきました。考古学が聖書を証明するのが大好きです。考古学的に何かを発見した時、私が道を踏み外すと、聖書の学びに戻ります。皆さん、少々お時間下さい。彼らが何かを見つけたら

「あ〜この考古学的な発掘物だ。これは何だ? 何を見つけたんだ?」「分からない。」「私には分かる。聖書を見てみよう。」そして何なのかを発見するのです。それが彼らがしている事。彼らは言いませんけどね。聖書を証明するだけです。藁にもすぎる思いで? からかっているのか? 神がそうなさるのが大好きです。「出エジプト記」に書かれている通りのことが起きています。さて、なぜ私はそのことを指摘するのか、なぜ日曜日にこの話をするのか。理由は、これはこんな風に言えるなら神の手口なのです。自分の民を救い出そうとしておられるので、苦難を増やしてらっしゃるのです。そして問題は、神の民があまりにも居心地良い場所にいる為、解放されたいと思わせる唯一の方法は、その居心地良い場所で、彼らを苦しめられるのです。神は快適な者を苦しめられます。「快適すぎます。」「はい、でも彼らは奴隷状態ですよ。」「そう、でもそれしか知らないから、彼らは何となく落ち着いている。」私はこのように見えます。私が言いたいことが分かると思います。少なくともそう願います。神に問題があられる時と言えば、神御自身に問題があるのではありませんが、これは言葉の流れでそう言います。神に問題が生じられる。その問題とは私たちですが、その問題は、神が私たちを、A 地点から B 地点へ動かされたい時です。私たちが A 地点に着きすぎ、快適すぎたら、どうやって A 地点から B 地点へ行きますか? 「お〜わたしは分かっている。A 地点を、波風立たせる必要があるね。A 地点の、熱を上げる必要があるね。A 地点を、苦しみの炉にする必要があるね。A 地点の快適さを、苦しめる必要があるね。なぜなら、そうしない限り、彼らは B 地点のことを考えないから。」ところで、私がこの説教壇に立つ特権はそのためです。私は決して...私は...この表現は使いたくないのですが、より良い言い方がありませんが、私たちは快適でした。教会は歩み、成長して、輝いていました。夢のような生活、すべてが素晴らしかった。私はその教会を他の牧師に任せて、別の教会を始めることなど考えもしませんでした。それは、私の頭の最も遠いところにありました。それが問題だったのです。では、神はどのようにして、私に、この教会を始めるためにそこを去ることを考えさせようとなさるのか? ええ、熱を上げなければなりません。そして、彼はそうなさいました。つまり私が考えるのは、「ふむ。もしかしたら私はもうここにいたくないのかもしれない。たぶん、私は、B 地点を考えるべきなのかな。」お〜効き目があるね。神は私を苦しみの炉に入れ、炎のような苦難をお許しになり、ああ、私はここに立っています。もう 17 年目になるのかな? 実際には、18 年になりますね。あの時、主がして下さらなかつたら、私は今頃どうなっていたか想像もつきません。私は再び、苦難を神に感謝することを学んでいます。なぜなら、苦難がなければ、ほ〜そう、ダビ

でもそう言っていました。「詩篇 119 篇 67 節」です。有名な詩篇ですね。

詩篇 119

67 苦しみにあう前には 私は迷い出ていました。しかし (あなたが苦しみを与える) 今はあなたのみことばを守ります。

神よ、苦難を感謝します。あなたに戦っていた私をお許してください。あなたを質問攻めにした私を許してください。今私は、苦しみの炉にいます。あなたは私の人生にとっても深く、深く、素晴らしいことをしておられるのに、私はそのことであなたと戦うのですか？ 私は苦難が必要です。ダビデは再度言います。

71 節、

詩篇 119

71 苦しみにあったことは 私にとって幸せでした。それにより私はあなたのおきてを学びました。

この表現を知っていますね。簡単な方法で学ぶことも、難しい方法で学ぶこともできます。(笑) 皆さん、笑って下さって嬉しいです。緊張したような不快な笑いでしたが、その理由は分かります。なぜなら、頼みますよ～。どれだけの人が簡単な方法で学んでいますか？ 私はむしろ、あなたの失敗から学び、自分の人生で同じことを繰り返さないようにしたいと思います。でも、時に自分が学ばなければなりません。それが私が学ぶ唯一の方法なのです。私が学ぶ唯一の方法が、その苦しみの炉を経験する事なのです。それが良いのです。良い事なのです。苦難は良いものです。戦わない。神が何か良いことをしておられます。神は善があられます。神は善のために働こうとしておられます。この中に、神があなたに見せたいものがあるのです。ここから、神があなたに学んでほしいことがあるのです。ダビデが語っています。

「苦しみにあったことは 私にとって幸せでした。あなたが苦難の中で教えようとしていることを学びました。」簡単な方法で、学べたらいいのにと私は思います。そうだったら良いのですが、皆さん、こんな能力を持った人がいて、私はその人たちが嫌いです。しかしとにかく、まるで彼らは、何かを読み取り、それが分かるのです。私はそうではありません。私はいつも学校で苦勞します。ある子がいました。クラスメートで、良い友人でした。A 判定、4.0。卒業生総代、全部そうでした。ある時、彼に聞いたことを覚えていて、「ジョン、君は勉強するの？ 宿題するの？」彼は言いました。「しないよ。分かるから。」私は、○□X△です。つまり、私はこれを手に入れようとしても、私の脳はそのようにはできていません。私はあの学校に行かなければなりません。お～聞いたことありますか？ “苦難と失望で学ぶ学校” なぜなら、それが私が学ぶ唯一の方法だからです。成功をもたらずのであれば、失敗というものはありません。言い換えれば、苦しみを体験しても、そこから教訓を得て戻ってくれば、それは良いことです。私にとって、苦しみに会って良かったのです。最後に言わせてください。再度、この話は日曜日にするので、あまり突っ込んだ話はしたくありませんが、これこそが、今この世界に、神がなさっていることだと、心から信じます。神はこの苦しみを許しておられます。それは世界的な規模です。先週も話したことでありますが、私たちを手放させるためです。神は私たちを解放しようとされているからです。イスラエルの民。これから、バビロンにいるイスラエルの民でそれを見ていきますが、イスラエルの民は、「出エジプト記」で彼らはそこで生まれたのです。彼らはそれしか知らなかったのです。想像出来ますか？ もしファラオがこう言っていたら、「OK。モー君、彼らを去らせよう。」そして彼らを解放する。そしてモーセがイスラエルの民にこう言う。「OK。みんな行こう。」「どこへ？ 行きたくなかったら？ ねえ、だってそんなに悪くないもん。」「ああ、でも 今までと同じノルマでレンガを作らなければならないよ。かなり大変だろ。」「ああ、でも行くの？」じゃあ、苦難の 10 の災いが必要なようですね。そうすれば彼らは行きたい

と思うでしょう。それが私にとって、神がすべての出来事をお許しになった「理由」なのです。第10の災いまでに起こった手口が故に「ああ神よ、我々を連れ出してください。」「我々を連れ出してください。」

「よろしい。準備はいいですか?」「はい、今は出来ています。前は出来ていませんでした。」あなたが私を苦しめたのは良いことでした。災いが起こったのは良いことでした。自分たちで藁を用意しなければならぬのは良い事でした。_____は良い事でした。皆さん空欄を埋めてください。これが起こったのは、良い事でした。起こっていることが原因で、何人の人々がキリストの下へ辿り着いていますか? 今こうしている間にも。私たちは彼らに天で会うのですよ。これがなかったなら、決して実現しなかったでしょう。苦難が必要です。それが手口・方法なのです。そうじゃなかったらいいのですが、そうなのです。そういう方法なのです。苦難、辛苦、困難、痛み、苦しみそれを見ていきます。

イザヤ 48

12 わたしに聞け、ヤコブよ。わたしが呼び出したイスラエルよ。わたしがそれだ。わたしが初めであり、また、終わりである。

13 まことに、わたしの手が地の基を定め、わたしの右の手が天を延べ広げた。わたしが呼びかけると、それらはこぞって立ち上がる。

彼らは注目しています。わたしがすべきは、御言葉を発することだけです。これは何のために? そう、神はここで、苦しみの炉を使って彼らを磨く理由を思い出させておられます。なぜならおもに、神がどういうお方であるか、また神だけの栄光のためだからです。同じことを違う方法で言います。聞いてください。「わたしはこれを許している。ヤコブよ聞きなさい、イスラエルよ。わたしがこれを許し、これをするのは、わたしが神であり、わたしだけが栄光を得るためである。わたしは神、初めであり終わりである。わたしの手は地の基を定め、わたしの右の手が天を延べ広げた。わたしが呼びかけると、彼らはこぞって立ち上がる。それがわたしなのです。あなたは識別され、わたしに結びついている。あなたはわたしの名で呼ばれている。あなたはわたしの名を公言している。これはわたしの名と栄光のためである。わたしがそれをします。」

イザヤ 48

14 みな集まって聞け。彼らのうち、だれがこれらのことを告げたのか。(皆さんこれ覚えておいてください後で戻ります)主に愛される者が、主の喜ばれることをバビロンに行く。主の御腕はカルデア人に向かう。

15 わたしが、このわたしが語り、彼を呼んだのだ。わたしは彼を来させ、彼の行うことを成功させる。

これは、未だ未来のキュロス王のことです。しかしここで神が宣言しておられるのは、結局、苦しみの炉、神が行われるすべてのことは、私たちへの愛が故なのです。神はわたしを愛しておられるから、これをなさるのです。繰り返しますが、これは、神が怒りや執念で私たちを罰しておられるものではありません。そうではなく、神は私たちを愛しておられます。事実、わたしはあなたがたを愛しているから、これをするのです。あなたがたを愛していなかったなら、気にもしません。親御さんとして、子どもさんが幼いころ、仰いましたよね。「お前を愛しているから、これをしているのだよ。」いつも私の子どもたちにこれと言うと、「そんな愛してくれなくていいのに。」またはこれはどうでしょう? それは、あなたを傷つけるよりも、私を傷つけることになる。なぜ自分を傷つけるのか? 私たち二人とも、この運命を免れることができるのに。「わたしはあなたを愛している。あなたを心から愛している。わたしは救い手を送るのです。その人物の両親が生まれる前、彼に名付ける前、150年から200年前に、イザヤを通してこのことを預

言し、わたしが彼に名前をつける。キュロスである。わたしは彼を繁栄させ、あなたがたを救わせる。しかしあなたがたは救われる前に、わたしは苦しみの炉の温度を上げます。そうすればあなたがたは、救われたくなるでしょう。」それがこの後の記述です。16 節、

イザヤ 48

16 わたしに近づいて、これを聞け。わたしは初めから、隠れたところでは語らなかつた。それが起こったときから、わたしはそこにいた。」今、神である主は、私をその御霊とともに遣わされた。

わお！！ 三位一体がここにいます。分かりますか？

イザヤ 48

17 イスラエルの聖なる方、あなたを贖う主はこう言われる。「わたしはあなたの神、主である。わたしはあなたに益になることを教え、あなたの歩むべき道にあなたを導く。

これは、イエスご自身が文脈の中に飛び込んで来られ、まるでご自分と聖霊を紹介するかのよう、主とし、贖い主とし、また、私たちが道に導くイスラエルの聖なる方である聖霊が、私たちを導き、行くべき道へ導かれるのです。これが道であり、あなたがたはそれを歩むのです。これは、私と聖霊の間では良いことです。聖霊は、私たちに指示を与え、時に方向を変えさせ、時に私たちを正されます。なぜか？ なぜなら、神は私たちを愛しておられるからです。お子さんやお孫さんを考えてみてください。どれだけ彼らを愛していますか？ 彼らを正し、方向転換させ、指示し、方向性を示さなければならないとき、それがどれほど難しいか。難しい事です。私はよく起業した話をしますね。企業を経営し、2つの教会を設立し牧師を務めてきました。しかし、それを合わせても子育てほど難しいものはありません。誇張ではなく。経営者であること、牧師であることは、親になることの大変さとは全く比べ物になりません。今までで、親になる事が最も難しい仕事だと思えます。親として愛するからこそ、こんなにも深く愛することができるとは知りませんでした。彼らを心から愛し、そして大変難しい。あなたは、子どもたちに方向性を示す必要があります。ここに、父なる神が、子なる神が、聖霊なる神がおられ、あなたに益となり、祝福し、繁栄するよう教え、あなたの行くべき道へ導かれるのです。特に今の時代は、あらゆることが起こっているのです、子どもたちに方向性を示さなければなりません私たちの天の御父はどれほどであられるでしょうか。

イザヤ 48

18 あなたがわたしの命令に耳を傾けてさえいれば、あなたの平安は川のように、正義は海の波のようになったであろうに。

19 あなたの子孫は砂のように、あなたの身から出る者は真砂のようになったであろうに。その名はわたしの前から断たれることも、滅ぼされることもなかつたであろうに。

ここは、愛する優しい天の御父の御心です。優しい、愛に満ちた天のお父様。御父がまるでこんな風に仰っています。「ああ、もしあなたが私に従っていたら、あなたの人生に祝福がもたらされていたのに。あなたの人生だけでなく、あなたの子どもや孫たちにも。もし、あなたが私に従うならば、ただ、わたしの言葉に耳を傾け、従順に歩んでいけば、平和が川のように、義が海の波のように溢れていたことでしょうに。あなたの子孫たち。私はあなたを祝福し、繁栄させたかったが、あなたは不従順の縄でわたしの祝福の手を縛ったのです。」私たちの問題が何か分かりますか？ 私たちは、従順なクリスチャン生活を送ることが難しいと思っています。従順であることよりも難しいことが何か分かりますか？ 不従順の結果のせいで、素直じゃないことです。因みに、従順である限り神は、神に従うために聖霊を与えずに、神に

従うよう命じることはあられません。それが、神がどのようなお方であるかなのです。神は私たちに命令することはあられません。

「神の命令は重荷とはなりません。」(Iヨハネ 5:3)

神は仰いません。「わたしがあなたに命じる！ 行け！」何ですって？ 違います。神は、主の聖なる御言葉に従うため、聖霊の「方法」を与えてくださいます。「あなたに命じます。ここに聖霊がいて、わたしが命じるこの命令に従えるよう、あなたを可能にし、力づけます。」それが神のご性質です。なぜなら考えてみてください。もし神がそうして下さらなかつたら、私たちの不従順の当事者になってしまいます。それは御出来になりません。神は私たちが罪や悪に誘惑することは御出来になりません。もし神が命じられるなら、私たちは、2~3週間前に話しましたが、黙示録3章にあるフィラデルフィアの教会宛の手紙です。

「あなたがたはわたしの命令に従い、忍耐強く耐えています。」私は何度も読んで、何度も何度も(ジリオン)教えました。はい、ジリオンは数です。それが”命じる”と書かれているのは分かっています。ただ、慣れ親しんだ聖書の一節がなんとページから飛び出してくるのです。繰り返しますが、それが、神の御言葉が生きていて、生き生きしていることなのです。つまり、ページから飛び出して、顔を叩いてくるのです。それは命令だったんだ！ 神はご自分の民に、神の命令に従うよう命じられたのです。神は何を命じられたのか？ 忍耐強く耐えるように命じられました。ああ、今、それが命令なの？ ジャあ、それは良い事です。なぜ？ それが命令なら、私たちが命令に従うよう、主は私たちに聖霊を与えてくださるからです。命令してほしいくらいです。実際、命令でないなら、私はこうです。

「神よ。命令して下さいますか？ そうすれば、私は聖霊を得て、それに従うことができます。」命令してほしいくらいです。「あなたは忍耐強く耐え、私の命令に従いました。」どうやって従うのか？ 聖霊の方法なのです。聖霊は、聖なる人生を送るために、私たちが可能にし、私たちに内在され、私たちに力を与えられるのです。それが聖霊の力なのです。イエスは弟子たちに仰いました。彼らは、イエスが死なれることや自分たちのもとを去ることを話され、パニックになっていました。

「そんなこと嫌です。なぜ行かなければならないのですか？」イエスはこんな風です。「いいえ、心配しないで。私は行かなければなりません、あなたがたに聖霊を送ります。事実、あなたがたは私に行ってほしいはずですよ。私が行かないなら、助け主、聖霊は送れませんから。」(ヨハネ 14章参照)

イザヤ 48

20 バビロンから出よ。カルデアから逃れよ。喜びの声をあげて、これを告げ、聞かせよ。地の果てにまで響き渡らせよ。「主が、そのしもべヤコブを贖われた」と言え。

21 主が荒れ果てた地を通らされたときも、彼らは渴くことがなかった。主は彼らのために岩から水を流れ出させ、岩を裂いて水をほとばしり出させられた。

そして最後の節です。

22 「悪しき者には平安がない。」主はそう言われる。

不従順な人生は、従順な人生よりも難しいというのは、そういうことです。邪悪な者が、夜によく眠れるとは一瞬たりとも思わないでください。邪悪な者、ノンクリスチャンが、私たちよりも良い状況にあるとは一瞬たりとも思わないでください。考えたり、ぶつぶつ言ったり、文句を言ったりしないでください。私たちはそう呼びたくはありません。私たちは聖別したいので、嘆きと呼びます。とても霊的な響きです。私たちは嘆く。牧師が、不満を言う、の代わりに使います。不満を言う、というのは、大変世俗的だ

からです。ですから、私は嘆いています。あなたは不満を言っているんですよ！！ クリスマン人生は大変だと決して不満を言わないでください。この世のノンクリスマンは、私たちの心の中に、彼らの側への同情と悲しみがありません。本当に同情します。私たちはよくこう言いますね。ノンクリスマンはどうするのか？ つまり、私たちには主がおられます。彼らは、どうしているのでしょうか？ つまり、私たちは主の下へ行けます。そう、薬の瓶であれ、お酒の瓶であれ、彼らは瓶へと向かうのです。彼らに同情します。彼らには平安がありません。彼らが夜ぐっすり眠れると思いますか？ つまり、そうなんです。私たちは彼らを好意的に見ていますが、彼らの人生で何が起きているのかは分かりません。彼らは苦しい生活を送っています。彼らには平安がありません。平安は、クリスマンとしての私たちの物です。世はそのことを何も知りません。彼らはその杯から味わう事はありません。そう、これは 預言的な宣言です。イザヤは、民にそのように言います。「あなたがたは自由です。行きなさい。」「神はあなたを自由されました。神はキュロスを遣わして、バビロン捕囚から救い出してくださいます。もうそうになっているのではないかと思うほどです。さあ、行きましょう。お～主を褒めたたえます。」

しかし、去らなかつた人もいたと言ったらどうでしょうか。分かりませんが、彼らはそこに定住することになったのでしょうか？ そうだと思います。私が向かっている先が分かりますか？ もちろんこのことは、繰り返しますが、日曜日にお話しします。彼らは落ち着きすぎたのです。彼らは、奴隷です。神が彼らを解放されたとき、彼らは信じなかつたのでしょうか？ 神が彼らをバビロンから連れ出された時、彼らは行きたくなかつた？ 不思議ですね。携挙が、瞬く間に、たちまち一瞬のうちに起こる時、ちょっと疑問なのは、神が私たちをこの世から連れ出される時、その時に「どうしても行きたくない」と考えるような人が出てくるのでは？「私はこの地であまりにも良いものを得た。物事が、普通の生活に戻りつつあるし。」その話はしない方がいいですね。

最後の1つです。久しぶりに共有したいと思います。私は高校時代に停学になりました。友達と一緒にバカなことをして、ほとんど退学になり、ほとんど卒業できないところでした。私は非常に反抗的でした。まだ救われていませんでした。私が救われたのは、卒業後の19歳の時でした。私はこのことを誇りに思いません。ただ、皆さんに共有しているだけです。私は教師の息子でした。私は1度だけ、優等生になるというミスを犯しました。2度とこのようなことがないようにしました。言ったように、私はこのことを誇りに思いません。バカなことをしてしまったのです。カフェテリアからプラスチックのコップを盗んで、捕まりました。校長先生が基本的に、仰ったのは「君を退学させることも検討するが、1週間の停学処分とする。」卒業できないと脅されました。ああ、父は大変、今は父親ですから分かりますが、父は、ただただ嘆いていました。彼は古いタイプで、感情を表に出すことはありませんでしたが、おそらく泣いていたのは分かっています。停学処分から戻った時、1人の先生がいて、クリスマンではありませんが、私を脇に寄せて仰いました。

「あのね、長く勤めていると、どうしても卒業したくない子がいるのよ。この時期が栄光の時代だからね。チームのキャプテンだったり、チアリーダーだったり、これや、それやだったり。結局のところ、彼らは、高校生だから、”高校生活を楽しめ”と言われるでしょ。人生の中で最高の年月なんだからと。」私は、「これが最高???本当に?ここから先は下り坂なの?」とにかく、その話にも行きませんが。その先生は仰いました。「彼らは卒業したくないのよ。でも卒業すると、彼らは常に過去に生きるのよ。彼らはまだレターマンジャケットを着て、クラスリングを着けるの。思い出に浸り、彼らは過去に生きるのよ。彼らは決して前に進まない。あなたを見ていると、ここにはいたくないようね。(私は口をつぐみま

した) あなたは辛いよね。辛いのはわかる。良く分かるわ。」私は、「そうです。」その先生は、言ってくれました。「あなたがここから出たいのは、それは良い事なのよ。」皆さん、点と点が繋がりましたか？神は、私たちがここから出たいと思うように、この世の苦難のレベルを上げておられると思います。なぜなら、ここでの物事がそんなに良いものならこうなります。「ええ、主よ、来て～～早めに～～」物事が現在の状況なら、「主よ...どうか早く来てください！！ 昨日来てください。昨日でないなら、今日。今日でないなら、明日。明日でないなら、どうか明後日。明後日でないなら、どうかどうかもう来てください！！ もう分からないのです。本当に酷い、本当に本当に酷いのです。」「あなたは、行きたいんですね。苦しみの炉の温度を上げます。」ですから宣言がなされ、ラッパが鳴ったとき、「時間だ！！ 私はここから出ていくんだ！」ご起立ください。賛美チームが上がってきます。

苦しみの炉。神よ、苦しみの炉をありがとうございます。

神よ、苦難をありがとうございます。主よ、ダビデのように、私たちも言い、祈ります。

「苦しみにあったことは 私にとって幸せでした。」 苦しみを許されるのはあなたであり、苦しみは常に解放に先立つものだからです。主よ、私は心から信じます。あなたが私たちを苦しめこの世から、まもなく私たちを連れ出そうとしておられることを。イスラエルの民をエジプトから解放されたように。イスラエルの民をバビロン捕囚から救われたように。あなたは、あなたの教会である私たちを、この世から連れ出そうとされています。私たちは言い、祈ります。「主よ、早く来てください。マラナタ。」イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7